

P-52

女子尿失禁に対する漢方製剤の効果について

大阪市立北市民病院 泌尿器科

堀井明範

女子に見られる尿失禁は、高齢化に伴い増加していると考えられる。特に骨盤底筋群の脆弱化、膀胱尿道角の開大等の原因で生じるといわれる腹圧性尿失禁については、予想以上の症例があるものと思われる。今回、40歳以上の当科を受診した症例に対しアンケート方式により尿失禁の有無を調査し、当該症例に対し膀胱内圧測定を含めた一連の泌尿器科学的検査を施行し、尿失禁量が中等度以下であった症例について補中益気湯、防己黄耆湯桂枝茯苓丸を投与し投与後の改善について検討し若干の知見を得たので報告する。

【対象】当科を受診した症例で事前に同意を得た上で、ウロダイナミックスを含めた一連の検査を施行して自覚的症状とあわせ尿失禁のスコア化を図った。症例数は45例で重度の尿失禁症例は除外した。処方薬剤は補中益気湯、防己黄耆湯、桂枝茯苓丸を選択しそれぞれ15例に投与した。投与期間は2週間とし、改善が見られた時さらに2週間継続して、自覚症状の改善について検討した。それぞれの症例で効果の見られない時は他剤に切り換えて経過を観察した。漢方製剤の投与期間は総体では1ヶ月とした。

【結果】双方の薬剤を総合して、スコアによる効果を検討した場合、約60%に愁訴の改善を認めた。各方剤間で比較してみると、補中益気湯の方に有効率の高い傾向を認めたが、桂枝茯苓丸も比較的有効であるように思われた。補中益気湯が有効であったのは、いわゆるアトニー状態の改善に同剤が有効であるのと同じ作用機序と考えられる。桂枝茯苓丸は駆瘀血剤として知られており、今回の検討で有効性を示したことは、瘀血の状態もやはり尿失禁に関与している可能性が示唆されたものと思われる。今回の成績を踏まえた上で、今後レントゲン所見等の変化も含め更なる検討が必要なものと考えられた。

【考察】尿失禁についての漢方製剤の有用性については、石橋らの報告を始めとしていくつかの成績が報告されている。今回我々は、自覚症状と他覚所見を組み合わせ薬剤投与の効果を前後のスコアで検討した。用いた製剤のうち、有用と考えられたのは、補気剤並びに駆瘀血剤であった。それぞれ、尿失禁の発症機転に関連しているものと考えられるが更にその他の所見を併せて解析すべきであるように思われる。